

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和2年3月13日 VOL.132

市民とともに 第4回「平穏死を考えるつどい」開催

令和2年2月15日（土）藤枝地区交流センターを会場に、一般社団法人志太医師会(会長：錦野光浩氏)と藤枝市の共催で、「平穏死を考える」ための研修会と意見交換会を開催し、市民39名と医師8人が参加しました。

医師の講義と看取り経験談の報告

研修会では、在宅医療サポートセンターの川村豊伸氏から在宅で家族を看取った体験談の報告と、介護保険施設ユニケア岡部の施設長 杉浦正司医師による「こんな最期、あんな最期、そして平穏死とは」と題し、様々な症例を交えながら平穏死についての講義を行いました。

医師と参加者とのグループワーク

各グループに配置した医師を中心として平穏死に関する体験談や意見交換などが行われました。現在の医療制度について、看取りの体験談を中心に、様々な終末期の選択肢があるなかで、平穏死を迎えるためには、「自分がどう生きたいかを家族に伝えておくことが大事」「かかりつけ医をどう持てばいいのか」など話し合いが大いに盛り上がりました。

感想からは、「エンディングノートを書いておきたい」「家族の数だけ最期の形がある」「看取った体験を聞いてもらえよかった」など、参加者の満足につながった様子が伝わりました。

次年度以降も今回のような講座を通して、市民啓発を行っていきます。



医師を交えてのグループワーク

「なんとめでたいご臨終」講演会 開催

令和2年2月16日（日）に生涯学習センターを会場に、静岡県中部健康福祉センターと藤枝市などとの共催で「医療・介護一体改革総合啓発事業リレー研修（最終回）」を開催し、270名が参加しました。「なんとめでたいご臨終」と題して岐阜県の小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニックの理事長兼院長 小笠原文雄氏による講演会と終活相談などの体験コーナーで大変賑わいました。



小笠原文雄 氏

小笠原医師の講演では、本人が自宅で最期の瞬間までどのように生きていきたいのかという思いを尊重し、最期を迎える本人と過ごす家族の揺れる気持ちに寄り添いながら実際に看取った多くの体験を織り交ぜ、「なんとめでたいご臨終」の迎え方について説明がありました。

参加者からは、「笑顔で最期を迎えたい、明るく人生を送った先に、めでたいご臨終を迎えたいと思った。」との感想が聞かれました。

体験コーナー

終活相談や終活未来フォト（遺影）撮影体験、入棺体験や元気に過ごすための体を維持するためのリハビリ専門職による虚弱化（フレイル）チェック・相談などを延145人の参加者が体験しました。
共催：終活みらい設計 NPO法人生き生き健康の環研究所

フレイルチェック



終活相談



バックNoの検索は

